

# 「次世代の人材育成と 医療科学・技術の創出」を目指して

滋賀医科大学学長 馬場 忠雄

法人化第一期の中期目標・計画は、全構成員のご理解とご協力により見事に達成することができました。法人評価委員会の評価結果は、全国国立大学法人86の中で、ベスト2と評価されました。

これは、年度毎に指摘された事項について、次年度には必ず改善してきたことによるものです。計画を立て、実行し、評価し、それに対して行動する、いわゆるPDCAサイクルを活用してきたことによるものです。これを念頭において日常業務にあたる重要性を示しています。

今年の4月から法人化第二期がはじまります。

中期目標・計画の原案についてもすでに文部科学省に提出されました。今年度の計画も現在作成中ですが、全構成員のご理解とご協力により、第一期を上回る評価結果の達成を期待しております。第二期の目標はSUMS project 2010-2016「次世代の人材育成と医療科学・技術の創出」に要約することができます。

教育・研修については、地域基盤型教育による人材育成であります(Society-based education)。第一期で成果が得られた、地域の人的資源の活用による教育、すなわち、早期体験実習、患者宅訪問、模擬患者の会や里親との交流などの充実であります。そして、課題探求問題解決型学習を教養の段階から導入し、少人数能動学習や自主研修の充実につなげることであります。

また、スキルズラボが徐々に整備されており、Student Doctor制(学生が実習するのにふさわしい知識と技能を持つていることを保障する)の導入を目指し、実技の充実を図ります。そして、卒後の研修の高度化プログラムにつなげ、研修を魅力あるものとするのが可能となります。なお、任期付教職員や表彰制度の導入による教育の充実、さらに学生支援の拡充を行います。国家試験の合格率に数値目標を設定します。

学生数を増加することができるようになり、独自の奨学金制度を創設します。特に、大学院レベルにおいては、外国人留学生数を1学年3人以上、計12人以上とするための、奨学支援を行うことにします。

また、本学の若手教員を中心に海外留学をサポートするため、費用を一部支援します。さらに、コマディカルや職員についても同様の支援を行う予定です。

特色ある研究(Unique Research)については、基礎と臨床医学の融合による新領域の研究展開を目指します。重点研究と独自の各個研究を積極的に支援します。

重点研究領域には、新しく総合がん治療研究の推進を加えました。大学において従来から行われていた基礎と臨床研究を全学的に取りまとめ、グループとして研究する体制を作り進展を目指します。昨年、醍醐教授のもとに総合がん治療学講座が県の寄附講座として設置され、オーダーメイドでがん治療にアプローチすることが可能となりました。がん治療は一つの方法で対応することは不可能であり、多角的に総合的に行う必要があります。そこで、本学のがん研究者が共同で新しい治療方法を開発することが求められています。

また、研究の推進に当たっては、グローバルレベルでの研究者交流はもとより、海外からの研究留学生の受け入れや若手研究者の海外研修も欠かすことができないものであります。これらを支援し、併せて、国際交流の促進にも寄与できると考えています。大学が独自の活動を行うのには今後ますます産学連携の推進が重要であり、大学のシーズを社会のニーズに変えてゆく必要があります。

大学附属病院は心あたたまる医療の提供(Mindful Medical Service)を目指し、先進医療と高度医療を推進します。附属病院の診療実績は大学経営に大きく影響しています。高度な技術による質の高い医療の提供こそ、大学附属病院の使命であります。研究成果の臨床応用の場として重要であり、大学附属病院の特徴を生かした先進医療の推進が欠かすことのできないものであります。

大学は医師の育成や高度の医療提供にとどまることなく、看護師、助産師などコマディカルの育成と地域との交流も本学の使命の一つでもあります。今までも、それぞれの職種でその役割を担っていただいておりますが、今後ますます充実する必要があります。

業務については、戦略的組織活性化(Strategic Activated Service)を柱として、組織の活性化で大学の機能を向上することを目指します。人件費の抑制が求められる社会情勢にあって、業務の選別と効率化が不可欠です。併せて、これらを実行に移すため、構成員が自ら発案できる仕組み作りも必要です。それらを可能とするポトムアップ体制の強化、教職員のキャリアアップ支援などを進めてまいります。

法人化になって日常業務を推進していく中で法人としての企画が必要となってきます。企画力の強化を行い、法人化に合った業務運営を行います。積極的な情報公開とエゴプロジェクトの推進などにより地域社会と連携し、大学の運営を目指すことが大切であります。

以上、第二期を迎え本学の一層の充実と発展をSUMS projectを全構成員のご理解とご協力の上、実行していきたいと思っております。

